

Qualifying Examination (QE) 結果報告

Qualifying Examination (QE) Report 2017

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教

渡辺 貴史

< 概要 >

グリーンアジア修士2年生の学生12名は、2017年2月8日の1日間および8月17日と18日の2日間にわたって博士研究開始資格認定審査 Qualification Examination (QE) を受験した。2月8日の審査は2名の日本人学生が受験した。8月の審査は10名の外国人学生が受験した。審査が2回に行われるのは、4月入学の日本人学生と10月入学の外国人留学生がいるためである。

< 詳細 >

QEでは、学生が2年間に受けた講義や研究室ローテーション、プラクティススクールなどの成果を評価された。評価は、以下に示すように、取得単位、研究成果発表、専門科目筆記試験、小論文試験によって行われた。

- (1) 取得単位：40単位のGPAが3.0以上であること。
- (2) 研究成果発表：講究I, II, IIIの成果をまとめ、英語で発表する。発表時間15分、質疑応答10分の発表を審査員が評価する。
- (3) 専門科目筆記試験：専門科目1科目について英語での筆記試験を行う。
- (4) 小論文：科学技術・産業・社会の関わりについて課題を自己設定し、自分の考えを英語でまとめる。

上記要件を満たして審査に合格すれば、修士の学位が授与され、また博士後期課程への進学が認められる。

2月のQEでは、2名の日本人学生が審査資格基準を満たして受験した。8月のQEでは、10名の外国人学生が審査資格基準を満たして受験した。

< 結果 >

2月8日の審査では、受験に必要な要件を満たした2名の日本人学生が優秀な成績を取って修士号を取得し、また博士後期課程への進学を認められた。

8月17-18日の審査では、受験に必要な要件を満たした10名の外国人学生が優秀な成績を取って修士号を取得した。このうち2名は、海外の大学への進学などの理由により博士後期課程へ進学しなかった。

審査実施後に、受験した学生を対象にしたフィードバックミーティングを行った。そこでは、全ての学生が、自身が取得した単位の数およびその成績について、また審査の評価について概ね満足していると述べた。その上で、まず数名の学生から、研究室ローテーションについて、一つの研究室に割り当てられる期間が短いまたは長すぎるなどの意見が出た。期間が短いという学生によれば、専門分野ではない研究内容に他の研究室で取り組む場合、基礎的学習から始めねばならず、そのため十分な研究ができないという意見であった。期間が長すぎるといふ学生によれば、他分野での研究に時間を取られるために、自身の専門分野の研究がおろそかになるという意見であった。また、博士後期課程進学後の経済的な支援について多くの質問が出た。これは、グリーンアジアプログラムの終了に伴い、今回受験した学生はグリーンアジアからの経済支援を博士後期課程の3年間の全期間で受けることができないために、今後を心配してのことと思われる。

